

京阪神 3 大学図書館の 連携・協力活動について （事例紹介）

委員 杉田茂樹（京都大学附属図書館事務部長）

「2030デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会

令和5年10月19日

京都大学附属図書館、大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動に係る協定書（抄）

京都大学附属図書館、大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館（以下「三館」という。）は、新たな大学図書館機能の実現に向けて連携・協力して取り組むため、以下のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、三館が連携・協力し、オープンサイエンス時代に即した大学図書館機能を創出・展開するための活動を行うことで、三館のみならず国内大学図書館の充実・活性化に寄与することを目的とする。

（連携・協力の内容）

第2条 三館は、前条の目的を達成するため、以下の事項について連携・協力する。

- 一 学術情報資源の確保に関すること **（発表者注） ≡電子ジャーナル関連**
- 二 学術情報資源の創出に関すること **（発表者注） ≡デジタルアーカイブ関連**
- 三 研究成果発信の支援に関すること **（発表者注） ≡機関リポジトリ関連**
- 四 その他、三館が必要と認めること

コンセプト

- プロジェクトではなく友好協力協定
- 何をするかをあらかじめ決めない。連携そのものが目的
- 業務ごとの担当係同士が、まるで隣にいるかのように知恵を出し合える環境づくり、関係づくり
- 各々が似たようなことを進める必要があるとき、独力でまぢまぢにやるよりも協働、分担、流用（文殊の知恵＋省力化）

同じ業務を行う者同士を接続

3館長ネットワークによる統括
幹事会：3部長、担当者会：担当3課長

太枠 はテーマごとの幹事役大学

学術情報資源の確保

電子ジャーナル契約（オープンアクセス包括契約を含む）に係る調査・研究・開発を協働して行う。

学術情報資源の創出

図書館資料等のデジタルアーカイブ化に係る調査・研究・開発を協働して行う。

研究成果発信の支援

機関リポジトリのコンテンツ増進（研究データ管理・公開支援を含む）に係る調査・研究・開発を協働して行う。

京都大学図書館機構・附図

総務課	総務掛
	経理掛
研究支援課	研究支援第一掛
	研究支援第二掛
	研究支援第三掛
	システム管理掛
利用支援課	情報企画掛
	情報管理掛
	情報サービス掛
	宇治地区図書掛
各部局図書館室	各部局図書担当掛

大阪大学附属図書館

図書館企画課	企画係
	庶務係
	会計係
学術情報整備課	学術情報収集班
	学術情報組織化班
図書館サービス課	フロアサービス班
	情報ナビゲート班
	生命科学図書館班
	理工学図書館班
箕面図書館課	外国学図書館班

神戸大学附属図書館

情報管理課	企画係
	管理係
	資料整備G（受入）
	資料整備G（雑誌）
	資料整備G（目録）
	資料整備G（整備）
	電子情報G（電子図書館）
	電子情報G（震災文庫）
	電子情報G（システム管理）
情報サービス課	各系図書館情報サービス係
	情報リテラシー係

研究支援第一掛

研究支援第二掛

研究支援第三掛

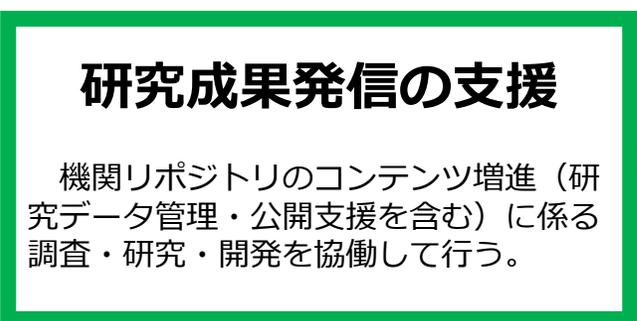
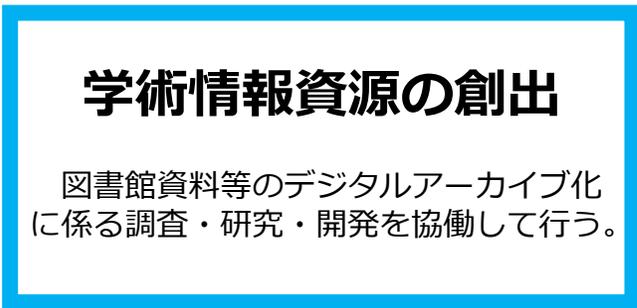
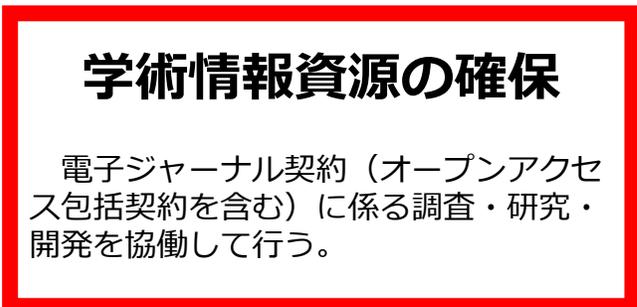
学術情報収集班

学術情報組織化班

資料整備G（雑誌）

電子情報G（電子図書館）

電子情報G（震災文庫）



ミニマムなスタート

- オンラインの顔合わせ会
- なんでも書き込み可のコミュニケーションツール設置
 - 「こんな記事が出てたよ」
 - 「〇〇という調査が来たね。こちらではこう答えるつもり」
 - 「利用者アンケート、比べ易いように項目揃えてやらない？」
 - 「転換契約の著者負担方式について〇〇や〇〇をどうしてる？」
 - 「〇〇の不具合について〇〇に質問したら、こういう事情みたい」
 - 「インボイス制度にどう対応する？」
 - 「DataCite DOI登録が有料化されるみたいだけど」
- 後日、プロジェクト的活動2点に着手

「統合イノベーション戦略2023」 への対応策検討への参画

＜学術論文等のオープンアクセス化＞
2025年度新規公募分からの学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向け、国としての方針を策定
(統合イノベーション戦略2023)

「大学図書館が果たすべき役割は？」

「2025年までに必要な準備は？」

協議等

- #1 9月6日 (水)
- #2 9月8日 (金)
- #3 9月15日 (金)
- #4 9月27日 (水)
- #5 10月6日 (金)

統合イノベーション戦略2023に係る情勢等解説会
10月17日 (火)
10月18日 (水)
10月19日 (木)

(会議体でなくボディを有する連携体として)
研究推進担当部署との情報共有、
シミュレーション等を実践的に

JPCOAR運営委員会
及びOA推進タスクフォース

国大図協資料委員会オープンサイエンス小委員会

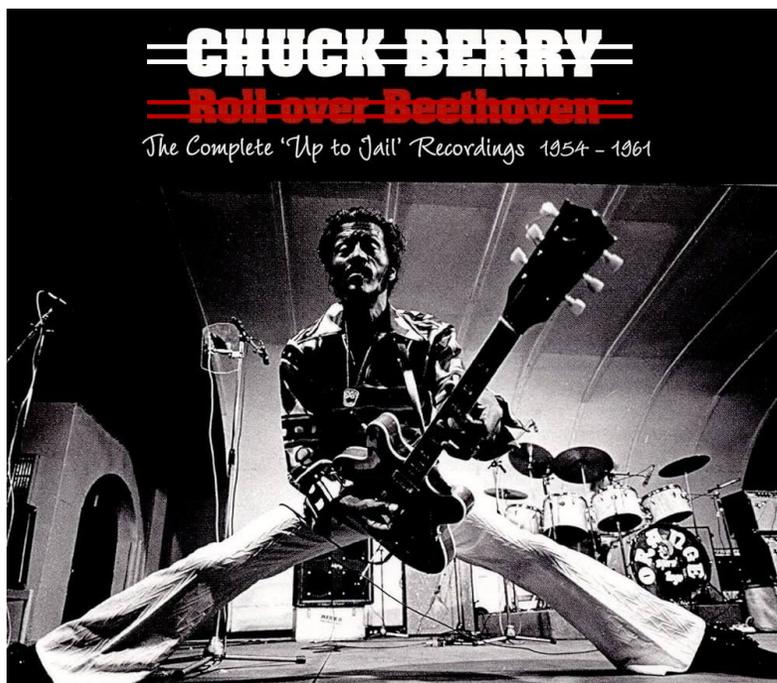
京阪神連携
「研究成果発信の支援」

大学図書館の本質的機能とオープンサイエンス時代におけるその表現についての検討 (京阪神版ライブラリー・スキーマ)

ケイハン
ション
の5法則

KHS LIBRARY

Write over Ranganathan

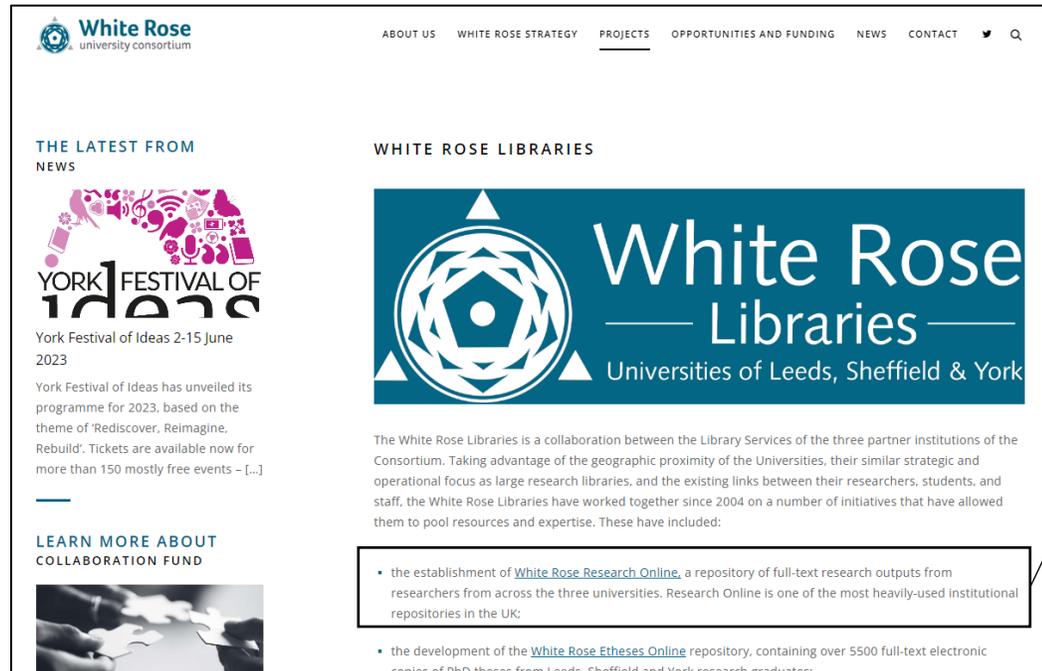


(コンセプトイメージ)

- 若手～中堅～管理職でワーキンググループ（12名）を構成
- 今年度後半で集中的に検討
 - 全員が私案を提出し、現在、若手～中堅を中心に叩き中
- 連携協力活動における位置
 - 学術情報資源の確保 に理論的土台
 - 学術情報資源の創出 を与える
 - 研究成果発信の支援

連携のモデルイメージ（発表者私見）

- 英国ホワイトローズコンソーシアム
（リーズ大学、シェフィールド大学、ヨーク大学）



The establishment of White Rose Research Online, a repository of full-text research outputs from researchers from across the three universities. ...

コンソーシアムとして共同機関リポジトリを運営。リーズ大学に専門スキルを有するリポジトリ管理者を置き、シェフィールドやヨークの研究者に対しては、先方大学のサブジェクトライブラリアンに同行してもらってコミュニケーションにあたっている（数年前に訪問し聴取）

